

2019年3月期 第3四半期決算説明会



スズキ株式会社
2019.2.5

第3四半期実績

… 増収、営業利益減益

(億円、千台)

	当第3四半期 (’18/4-12)	前年同期 (’17/4-12)	増 減		補足	
			増	減 増減率		
連結業績 (億円)	売上高	28,388	27,249	+1,139	+4.2%	2期連続増収、過去最高 ^{※1}
	営業利益 (利益率)	2,565 (9.0%)	2,598 (9.5%)	▲33	▲1.3%	7期振り減益
	経常利益 (利益率)	3,061 (10.8%)	2,846 (10.4%)	+215	+7.6%	7期連続増益、過去最高 ^{※1}
	四半期純利益 ^{※2} (利益率)	1,808 (6.4%)	1,643 (6.0%)	+165	+10.0%	4期連続増益、過去最高 ^{※1}

- ・売上高増加 … 日本での四輪車の販売増、インドでの四輪車、二輪車の販売増等
- ・営業利益減益 … インドルピーなど新興国通貨安の影響や販売費用増加等
- ・経常利益増益 … 受取利息増加などもあり増益

世界販売 (千台)	四輪車		二輪車		補足
	当第3四半期	前年同期	増	減 増減率	
	2,480	2,368	+111	+4.7%	インド、日本等で増加、過去最高 ^{※1}
	1,303	1,166	+138	+11.8%	インド、インドネシア等で増加

通期業績予想

… 通期業績予想は据置き

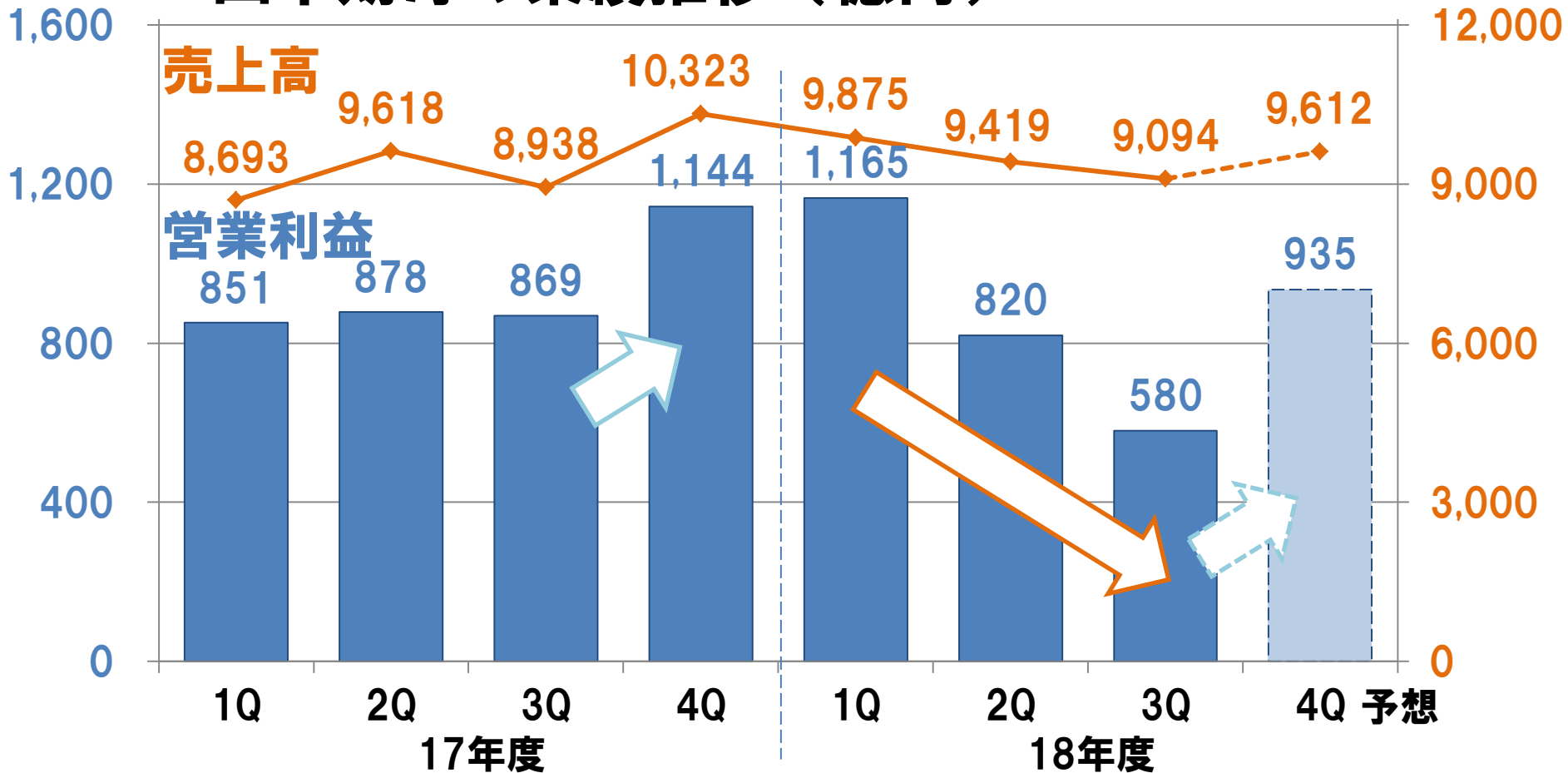
- ・販売台数、為替前提等を見直したが、売上高、利益は据置き

※1. 第3四半期累計期間として過去最高

※2. 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

新興国通貨安、販売費用増加等により10~12月期減益
1~3月期は回復の見通し

四半期毎の業績推移（億円）



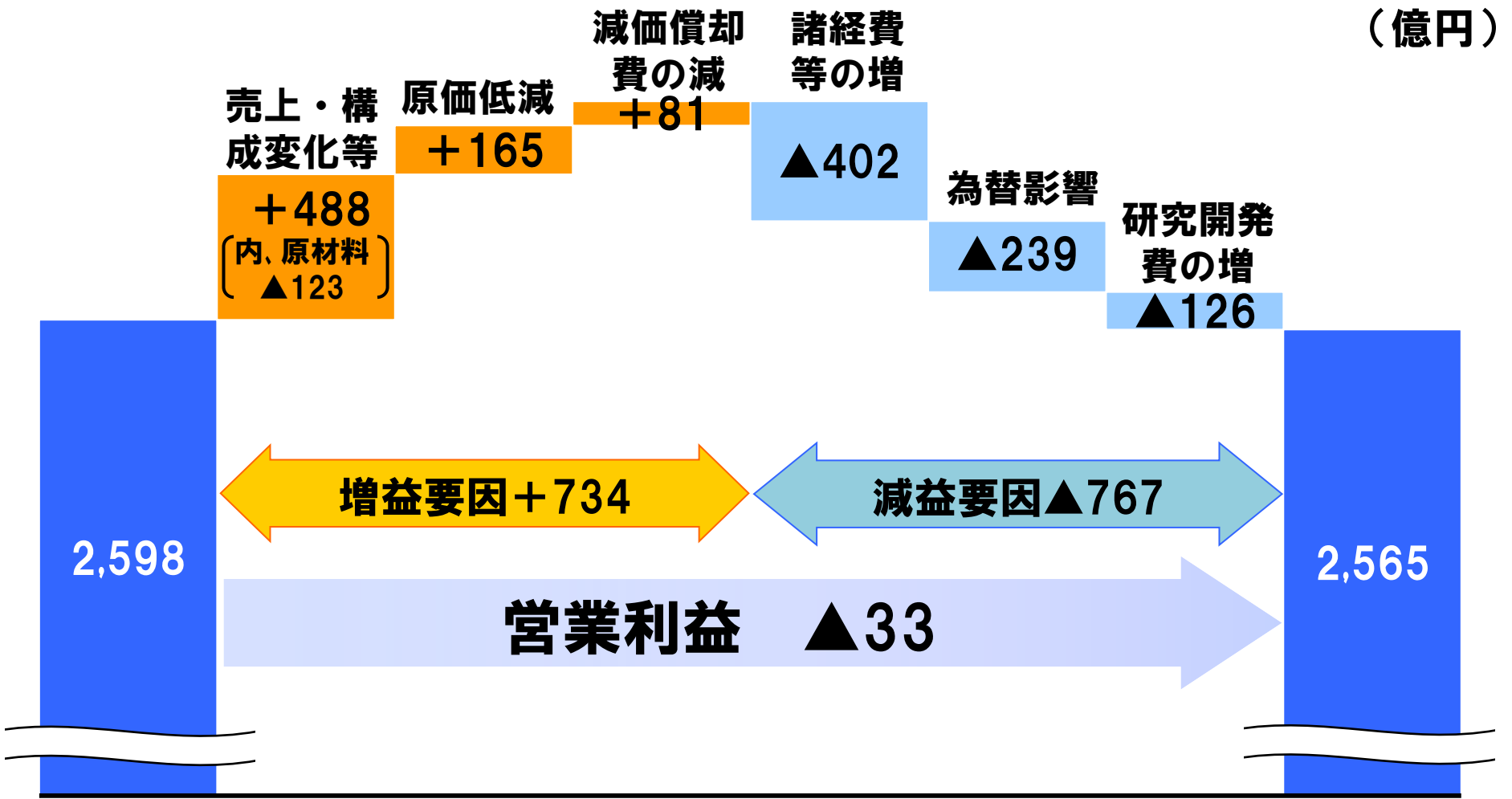
各事業で増加、海外が減少したが、国内・連結は過去最高※

(億円)	四輪			二輪			マリン他			合計			内、為替 換算影響
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	
国内計	8,704	7,530	+1,174	147	159	▲12	109	111	▲2	8,960	7,800	+1,160	
自 社	7,875	6,758	+1,117	147	159	▲12	109	111	▲2	8,131	7,028	+1,103	
OEM	829	772	+57							829	772	+57	
海外計	17,262	17,366	▲104	1,675	1,651	+24	491	432	+59	19,428	19,449	▲21	▲1,102
欧州	3,294	3,323	▲29	265	320	▲55	112	118	▲6	3,671	3,761	▲90	+17
北 米	9	11	▲2	211	228	▲17	257	194	+63	477	433	+44	▲3
アジア	12,304	12,237	+67	962	833	+129	48	44	+4	13,314	13,114	+200	▲1,059
インド	9,470	9,247	+223	407	339	+68	4	3	+1	9,881	9,589	+292	▲798
〃以外	2,834	2,990	▲156	555	494	+61	44	41	+3	3,433	3,525	▲92	▲261
その他	1,655	1,795	▲140	237	270	▲33	74	76	▲2	1,966	2,141	▲175	▲57
総合計	25,966	24,896	+1,070	1,822	1,810	+12	600	543	+57	28,388	27,249	+1,139	▲1,102
内、為替 換算影響			▲1,031			▲69			▲2				▲1,102

注. 当期…2018年4～12月期、前期…2017年4～12月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

※第3四半期累計期間として過去最高

(億円)



前年同期
営業利益

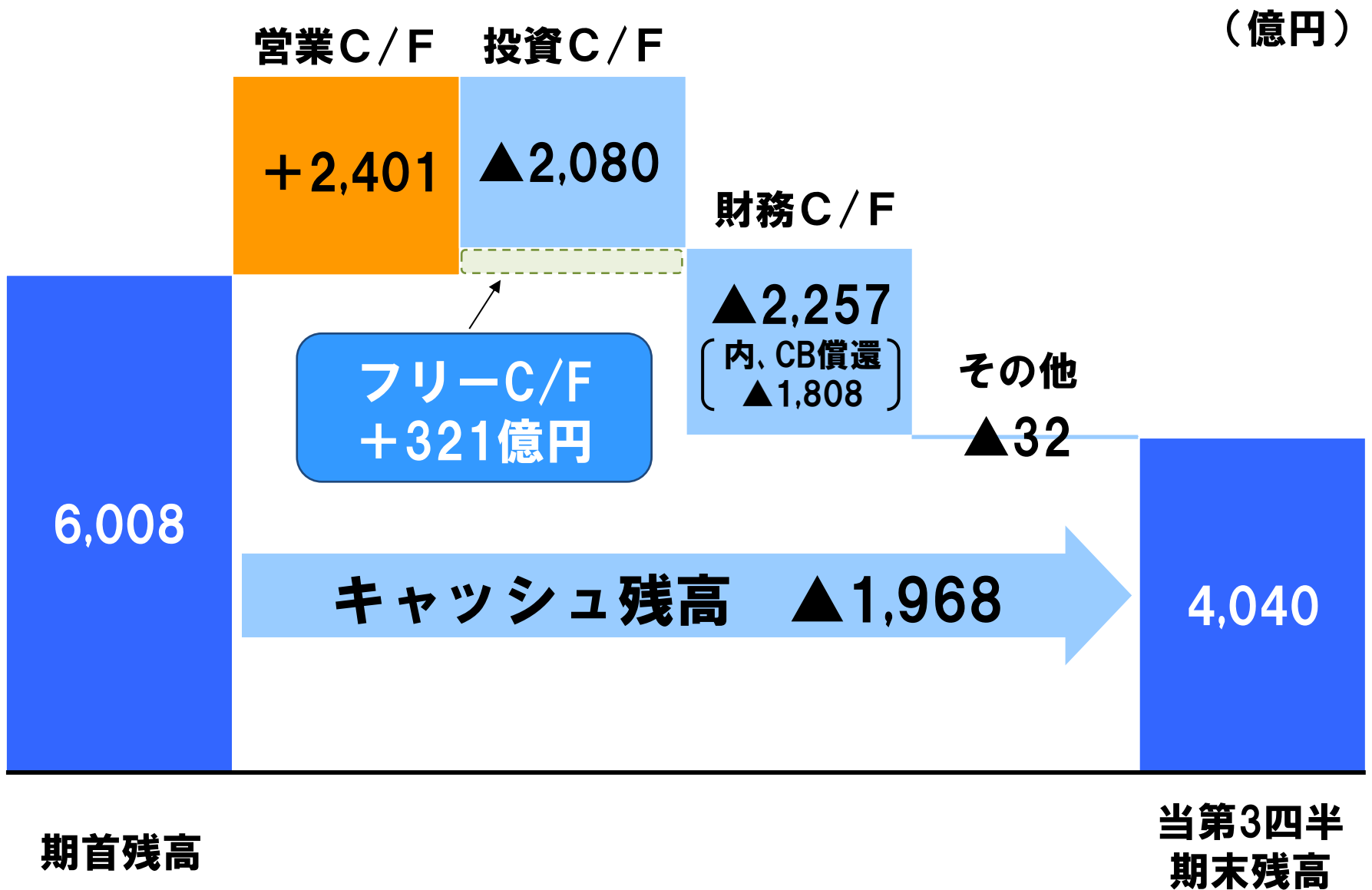
当第3四半期
営業利益

	当第3四半期 (’18/4-12)	前年同期 (’17/4-12)	増 減	営業利益 為替影響
米ドル	111円	112円	▲1円	▲3億円
ユーロ	129円	129円	+0円	+9億円
インドルピー	1.61円	1.74円	▲0.13円	▲155億円
インドネシアルピア (100ルピア当り)	0.77円	0.84円	▲0.07円	▲20億円
タイバーツ	3.41円	3.33円	+0.08円	▲3億円
パキスタンルピー	0.90円	1.06円	▲0.16円	▲34億円
その他	—	—	—	▲33億円 ※
計				▲239億円

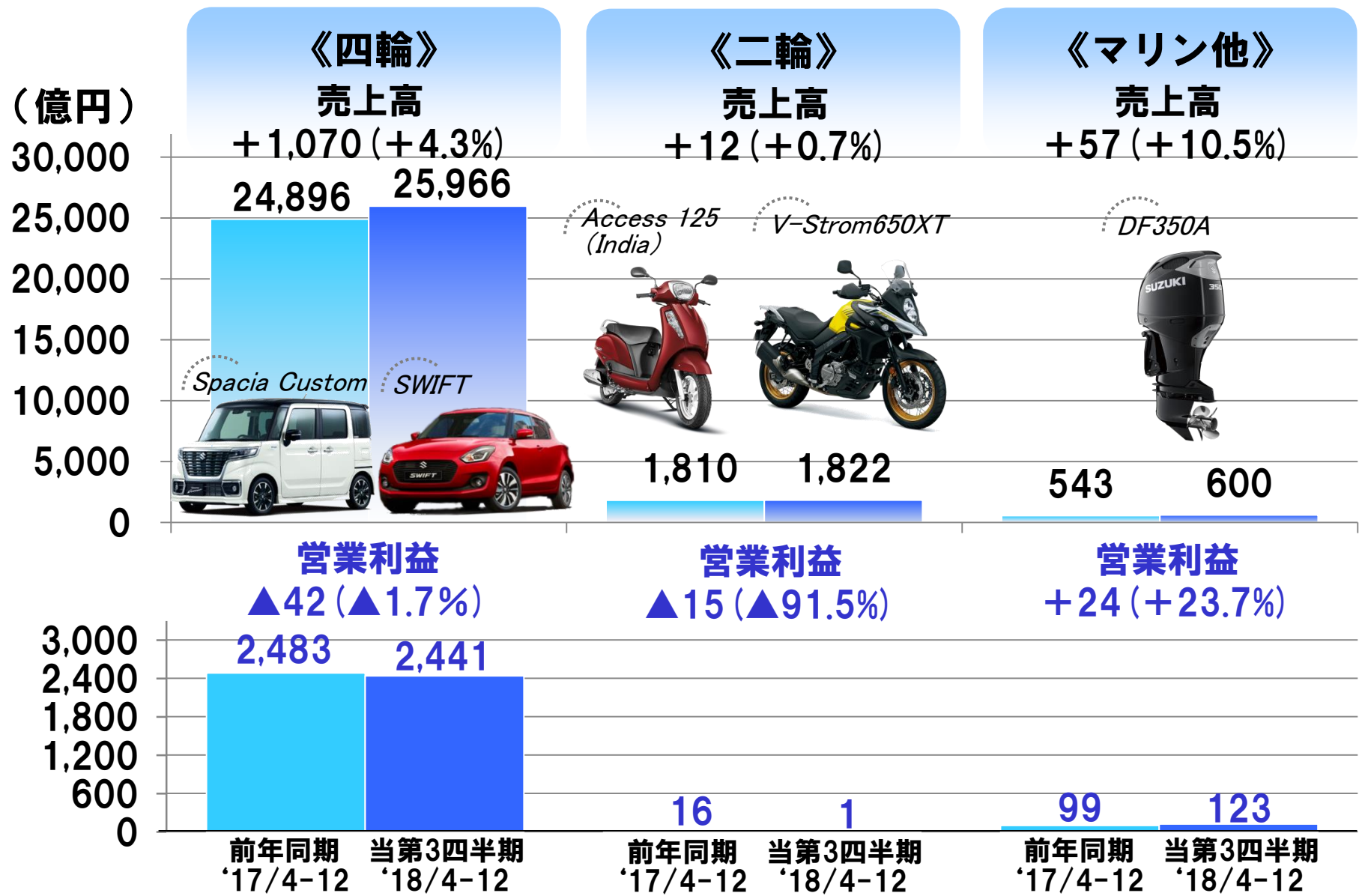
※メキシコペソ▲14億円、豪ドル▲7億円、ロシアルーブル▲6億円 他

	当第3四半期 ('18/4-12)	前年同期 ('17/4-12)	増減
(当社単独)	421億円	365億円	+56億円
(子会社)	1,491億円	867億円	+624億円
設備投資	1,912億円	1,232億円	+680億円
減価償却費	1,063億円	1,144億円	▲81億円
研究開発費	1,114億円	988億円	+126億円

	当第3四半期末 ('18/12末)	前年同期末		前期末	
		('17/12末)	増減	('18/3末)	増減
有利子負債残高	4,068億円	6,561億円	▲2,493億円	5,779億円	▲1,711億円
連結子会社数	131社	131社	±0社	131社	±0社
持分法適用 関連会社数	28社	31社	▲3社	31社	▲3社
従業員数	68,040人	64,817人	+3,223人	65,179人	+2,861人

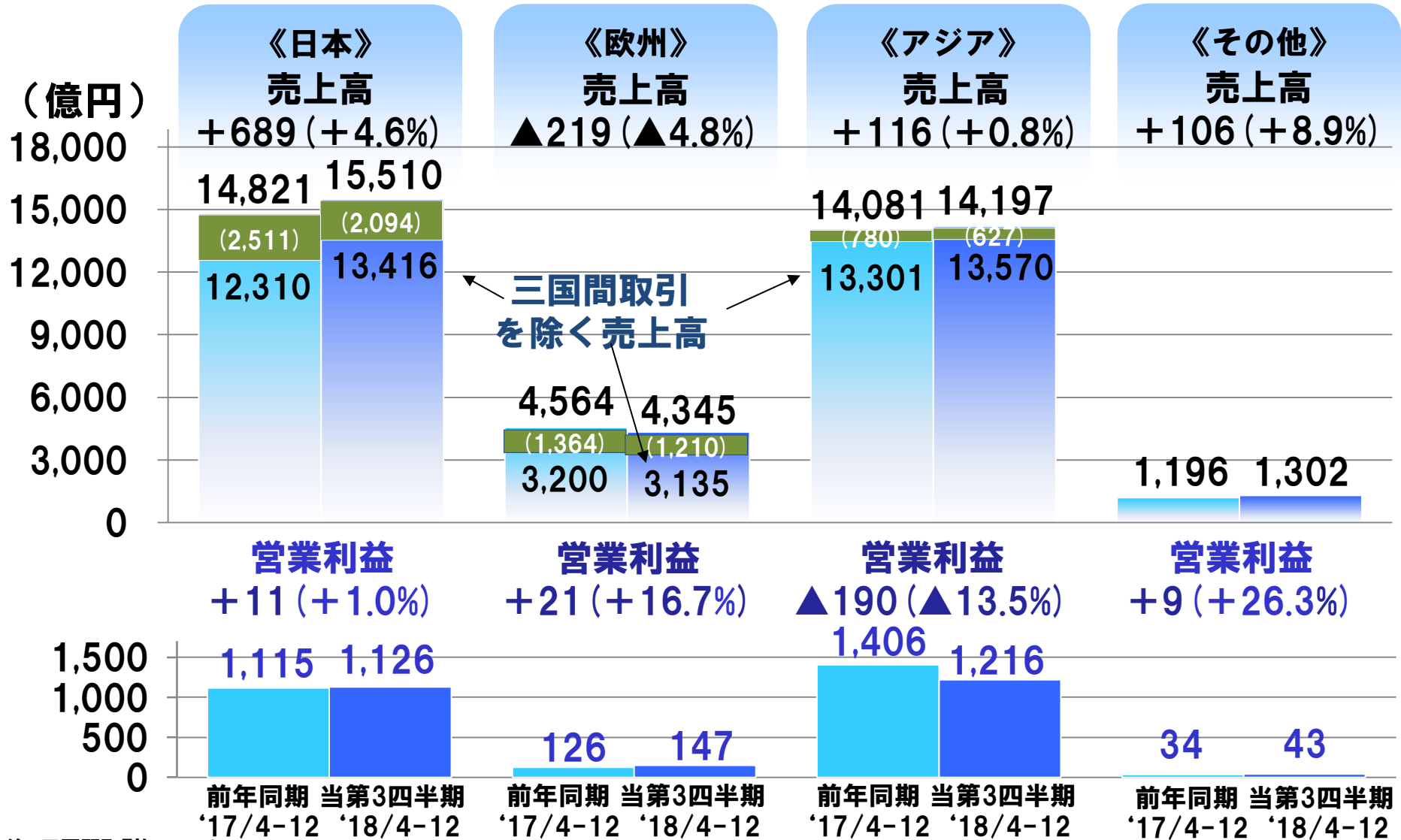


連結：事業別業績 (売上高・営業利益)





連結：所在地別業績 (売上高・営業利益)



注. 三国間取引について
従来、ハンガリー生産車の欧州域内への子会社向け売上高は、域内子会社間取引として消去されていましたが、取引形態を日本経由の三国間取引に変更したため、日本向け売上高及び日本から欧州への売上高が消去されず、日本・欧州ともに売上高がその分、多く表示されています。アジアについても同様な取引があります。

第3四半期実績に加え、販売・為替見通し等を反映

(億円)	今回 通期予想	前期比較		前回予想比較	
		前期実績	増減	前回予想	増減
売上高	38,000	37,572	+428	38,000	
国内売上	12,000	11,167	+833	11,900	+100
海外売上	26,000	26,405	▲405	26,100	▲100
営業利益	3,500	3,742	▲242	3,500	
経常利益	3,900	3,828	+72	3,900	
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,200	2,157	+43	2,200	
増減要因	売上・構成変化等	+428	+1,030	+408	+20
	原価低減	+270	+266	+270	
	為替影響	▲420	+383	▲400	▲20
	減価償却費の減		+125		
	諸経費等の増	▲320	▲650	▲320	
	研究開発費の増	▲200	▲79	▲200	
計	▲242	+1,075	▲242		
設備投資	2,500	2,134	+366	2,500	
減価償却費	1,500	1,509	▲9	1,500	
研究開発費	1,600	1,394	+206	1,600	

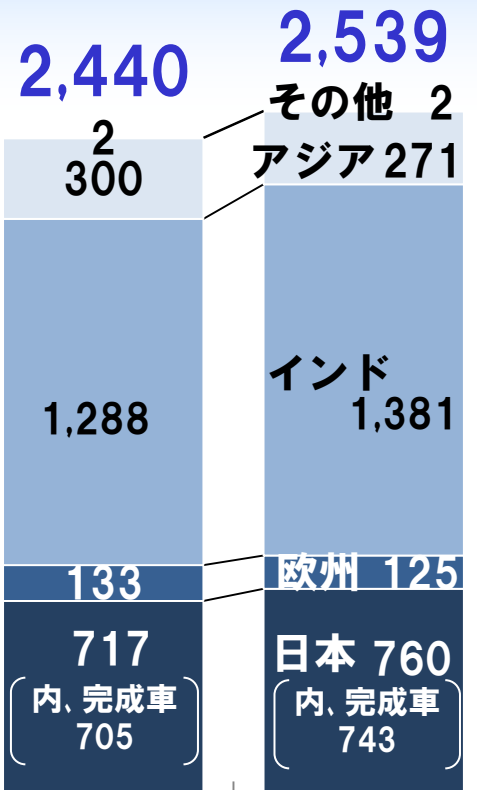
実績レートを反映

	今回予想 (2018.4~2019.3)			営業利益 為替影響	前期比較 (2017.4~2018.3)		前回予想比較 (2018.4~2019.3)	
	4-12月 実績	1-3月 予想	通期 予想		通期 実績	増減	通期 予想	増減
米ドル	111円	105円	110円	▲9億円	111円	▲1円	108円	+2円
ユーロ	129円	120円	127円	▲34億円	130円	▲3円	130円	▲3円
インド ルピー	1.61円	1.50円	1.58円	▲237億円	1.73円	▲0.15円	1.56円	+0.02円
インドネシア ルピア※	0.77円	0.75円	0.77円	▲23億円	0.83円	▲0.06円	0.77円	
タイ バーツ	3.41円	3.40円	3.41円	▲2億円	3.36円	+0.05円	3.35円	+0.06円
パキスタン ルピー	0.90円	0.75円	0.86円	▲50億円	1.04円	▲0.18円	0.89円	▲0.03円
その他通貨				▲65億円				
為替影響額 計				▲420億円				

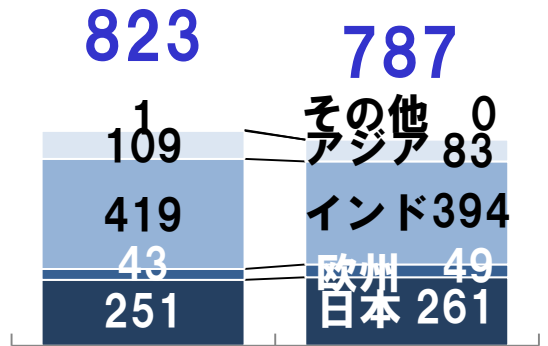
※インドネシアルピアは100ルピア当りのレート

4～12月は過去最高、但し10～12月は前年割れ

《4～12月比較》
+98千台 (+4.0%)



《内、10～12月比較》
▲36千台 (▲4.4%)
(千台)



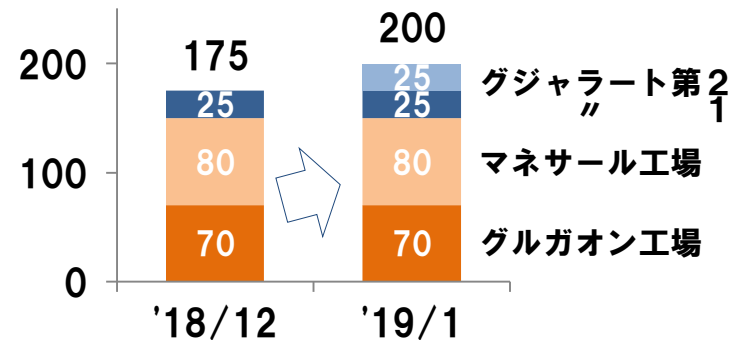
●当期の世界生産

- 4～12月では、2,539千台（前年同期比+4.0%）で、過去最高を更新
- 10～12月はインドの減などにより、787千台（同▲4.4%）と前年割れ

●トピックス

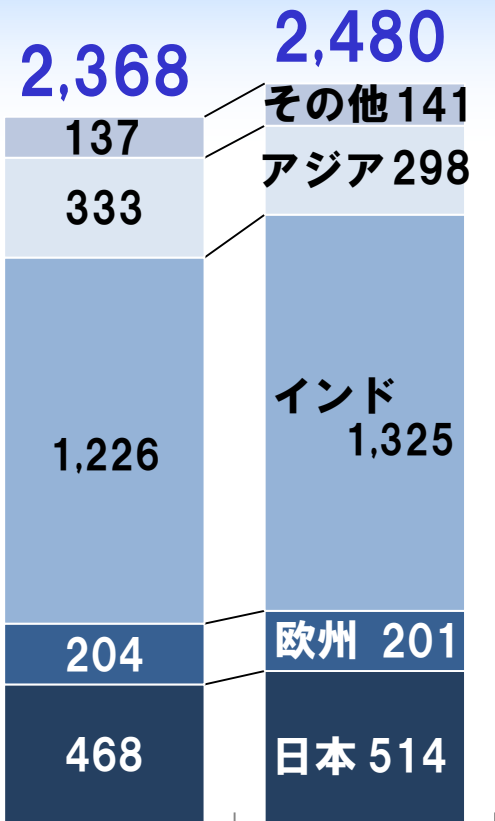
- 1月、インド・グジャラート工場の第二工場が稼働開始

インド四輪生産能力（2勤定時、万台）

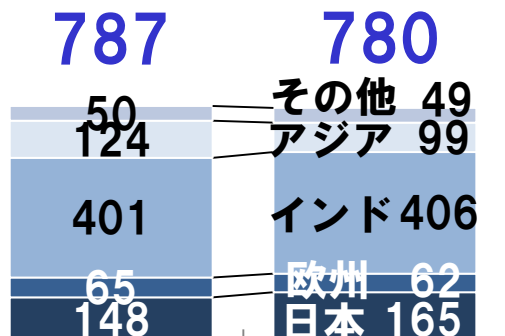


4~12月は過去最高、但し10~12月は前年割れ

《4~12月比較》
+111千台 (+4.7%)



《内、10~12月比較》
▲7千台 (▲0.9%)
(千台)



●当期（4~12月）の世界販売

- ・2,480千台（前年同期比+4.7%）で、過去最高を更新
- ・日本、インドで増加
- ・アジアの減少は主に中国での減少

●当期（10~12月）の世界販売

- ・780千台（同▲0.9%）で、前年割れ
- ・引き続き日本が増加したものの、世界販売を牽引してきたインドが前年並み

前年同期
'17/4-12

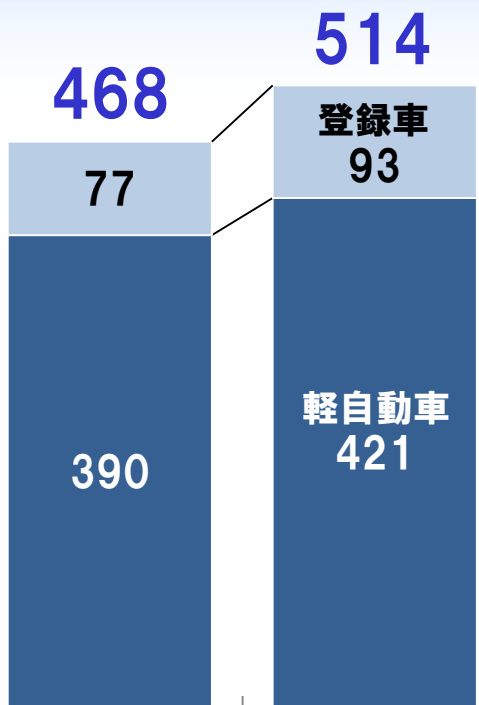
当第3四半期
'18/4-12

前年同期
'17/10-12

当第3四半期
'18/10-12

「スペーシア」「クロスビー」などが貢献

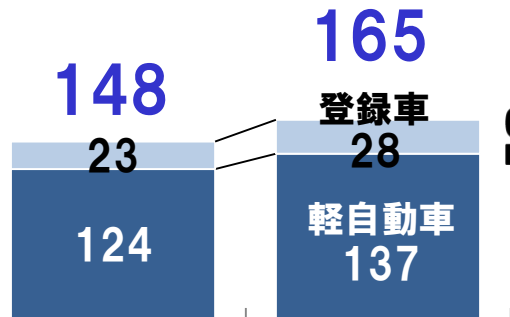
《4～12月比較》
+46千台（+9.9%）



前年同期
'17/4-12

当第3四半期
'18/4-12

《内、10～12月比較》
+18千台（+11.9%）
（千台）



前年同期
'17/10-12

当第3四半期
'18/10-12

●当期（4～12月）の日本販売

- ・「スペーシア」「クロスビー」等の販売貢献により、514千台（前年同期比+9.9%）、軽自動車、登録車ともに増加

●トピックス

- ・12月「エスクード」を仕様変更、安全装備を充実
- ・12月「アルト ラパン」に特別仕様車「モード」を設定
- ・12月「スペーシア ギア」新発売

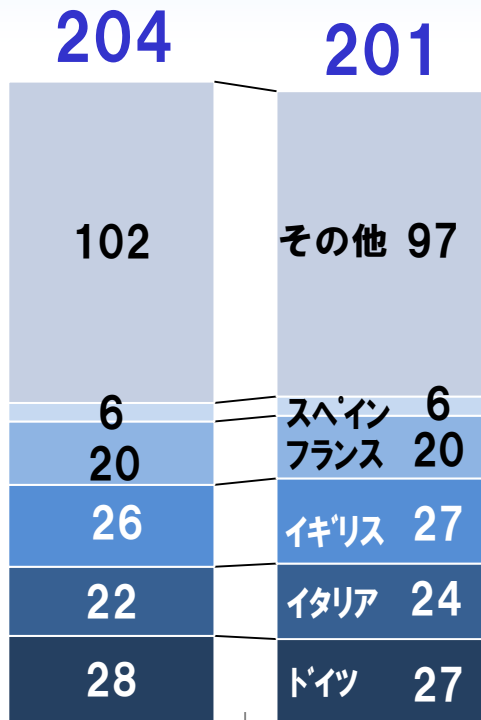
GEAR
Spacia



ハンガリー工場減産影響もあり前年割れ

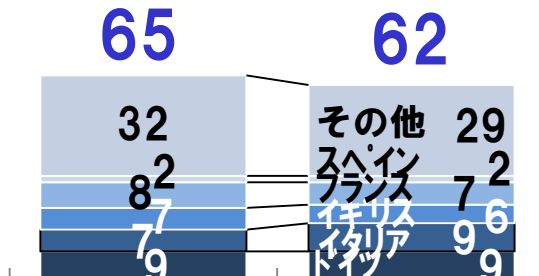
《4～12月比較》

▲3千台（▲1.6%）



《内、10～12月比較》

▲3千台（▲4.2%）
（千台）



●当期（4～12月）の欧州販売

- ・ 欧州全体では「スイフト」、「イグニス」が販売貢献したものの、ハンガリー工場減産の影響もあり、201千台（前年同期比▲1.6%）と前年割れ



前年同期
'17/4-12

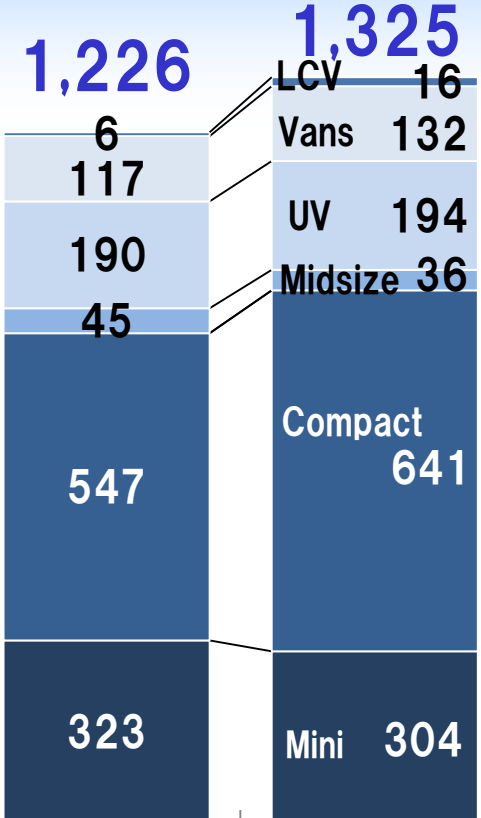
当第3四半期
'18/4-12

前年同期
'17/10-12

当第3四半期
'18/10-12

4～12月は過去最高、但し10～12月は前年並み

《4～12月比較》
+98千台（+8.0%）

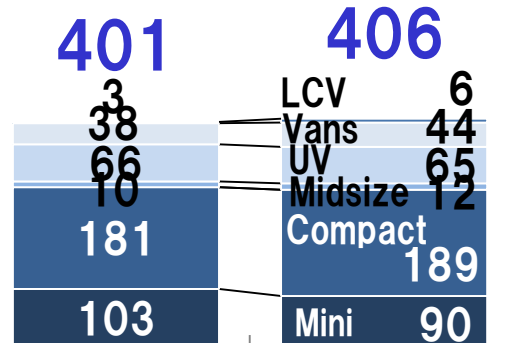


前年同期 '17/4-12 当第3四半期 '18/4-12

《内、10～12月比較》
+5千台（+1.3%）
（千台）



※LCV=Light Commercial Vehicles,
UV =Utilities Vehicles



前年同期 '17/10-12 当第3四半期 '18/10-12

●当期のインド販売

- 4～12月累計は1,325千台で第3四半期として過去最高を更新したが、10～12月期では前年同期並み

●トピックス

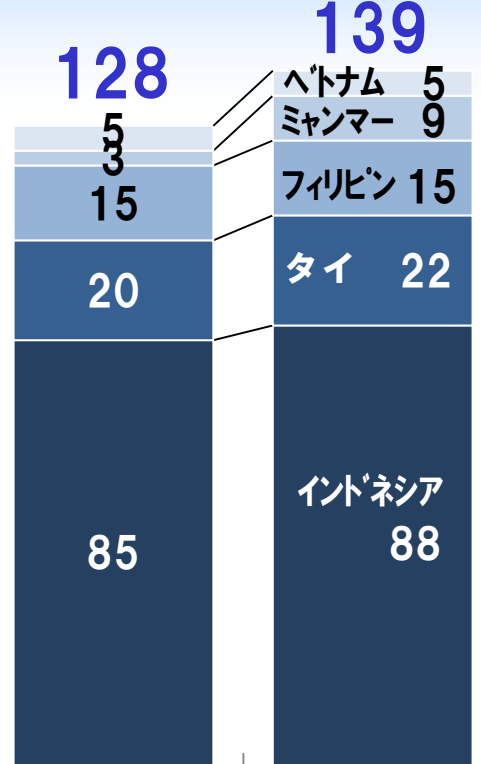
- 11月「エルティガ」全面改良
- 11月「スイフト」が2005年5月発売以来の累計販売200万台
- 12月「スイフト」が「Indian Car of the Year (ICOTY) 2019」を3世代連続受賞



- 12月、CNG車が2010年10月発売以来の累計販売5万台達成
- 1月「ワゴンR」全面改良

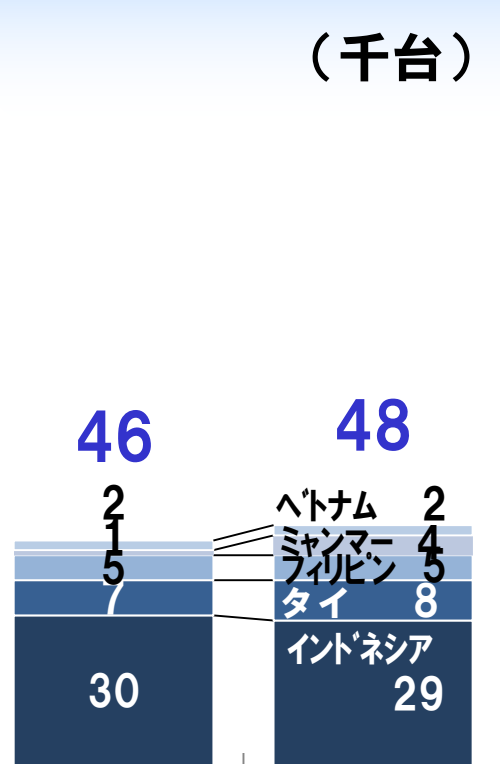
インドネシア、ミャンマーの販売増等により増加

《4～12月比較》
+11千台（+8.6%）



前年同期 '17/4-12 当第3四半期 '18/4-12

《内、10～12月比較》
+1千台（+2.7%）



前年同期 '17/10-12 当第3四半期 '18/10-12

●当期（4～12月）アセアン販売

- ・アセアン5ヵ国※合計で139千台（前年同期比+8.6%）
- ・インドネシアは商用車の好調もあり、前年同期比+3.1%
- ・タイは「スイフト」の増加等により、前年同期比+13.8%
- ・ミャンマーは全体市場の伸長により、前年同期比3倍に拡大

●トピックス

- ・9月、インドネシアから、新型「エルティガ」の輸出を開始



※ アセアン：インドネシア、タイ、フィリピン、ミャンマー、ベトナム 5ヶ国合計

2018年8月、1982年の生産開始から36年で達成

・ 11月26日、パキスタンのアブドゥル・ラザク・ダワード首相顧問らを迎え、鈴木修会長出席のもと、パックスズキ社工場にて記念式典



(パキスタンでのスズキ四輪車生産)

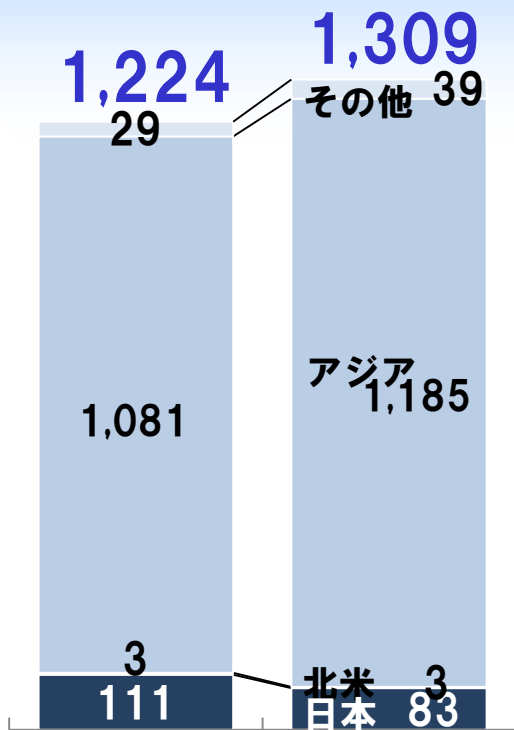
- ・ 1975年、スズキ四輪車初の海外生産
- ・ 1982年、パックスズキ社で生産開始
- ・ 日本の軽自動車を中心に800~1,000ccのエンジンを搭載したモデルを中心に生産



※現地ラインオフベース、2018年度は4~12月実績

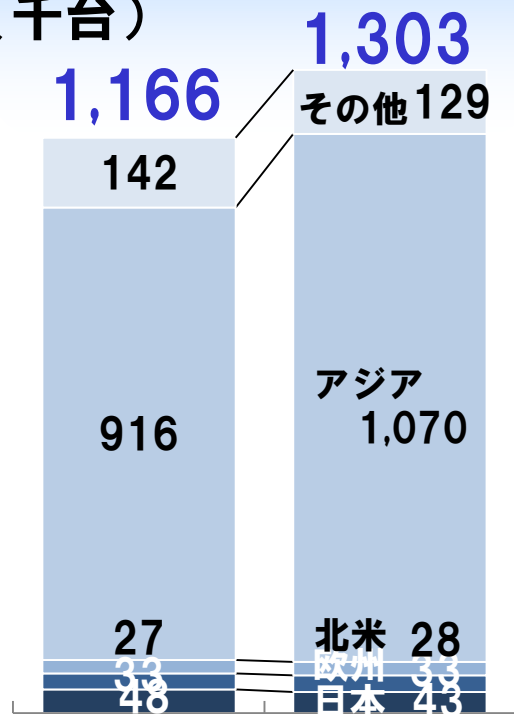
生産・販売ともに増加

《4～12月生産》
+85千台 (+6.9%)



前年同期 '17/4-12 当第3四半期 '18/4-12

《4～12月販売》
+138千台 (+11.8%)
(千台)



前年同期 '17/4-12 当第3四半期 '18/4-12

●当期（4～12月）の二輪車

- ・二輪車世界生産は1,309千台で前年同期比+6.9%
- ・二輪車世界販売は1,303千台で前年同期比+11.8%

●トピックス

- ・12月、1963年英国マン島TTレース日本人初の優勝者 伊藤光夫氏「第1回 MFJモーターサイクルスポーツ殿堂」入り

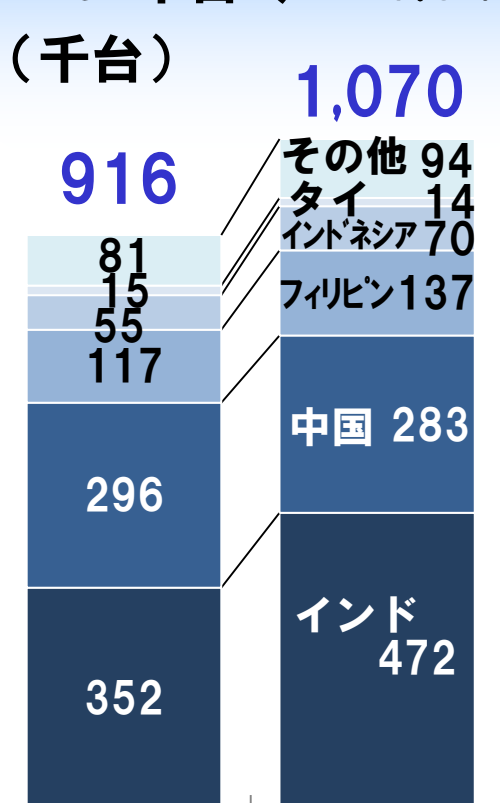
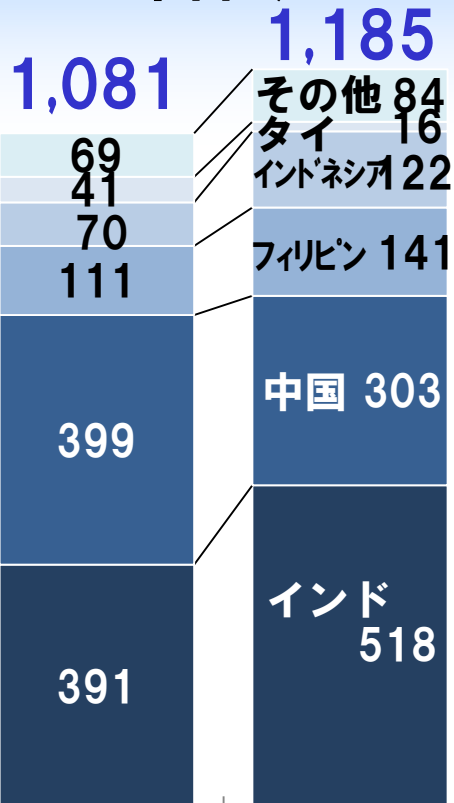


※二輪車の海外販売台数については、一部地域で卸販売台数としていましたが、当第3四半期実績から小売販売台数に統一（前年同期の販売についても組替え）しました。

インド、インドネシア、フィリピン等で増加

《4~12月生産》
+104千台 (+9.6%)

《4~12月販売》
+154千台 (+16.8%)
(千台)



●当期（4~12月）のアジア販売

- ・アジアの販売は、インド、インドネシア、フィリピン等で増加し、1,070千台（前年同期比+16.8%）
- ・インドは「アクセス」の好調に加え7月には上級スクーター「バーグマンストリート」投入もあり、拡大（同+34.3%）

●トピックス

- ・12月、Suzuki Motorcycle India社が2006年の生産開始以来、12年で累計生産400万台を達成



前年同期 '17/4-12
当第3四半期 '18/4-12

前年同期 '17/4-12
当第3四半期 '18/4-12

第3四半期実績、及び今後の見通しを反映

(千台)	通期生産台数					通期販売台数				
	予想 (18年度)	前期実績		前回予想からの修正	予想 (18年度)	前期実績		前回予想からの修正		
		(17年度)	増減			増減率	(17年度)		増減	増減率
<四輪車>										
日本	1,021	971	+50	+5.1%	+11	718	668	+50	+7.5%	+21
欧州	181	180	+1	+0.4%	+9	280	281	▲1	▲0.3%	-
アジア	2,190	2,185	+5	+0.2%	▲102	2,144	2,093	+51	+2.4%	▲29
その他	2	2	▲0	▲12.5%	▲2	185	182	+3	+1.9%	▲3
合計	3,394	3,338	+56	+1.7%	▲84	3,327	3,224	+103	+3.2%	▲11

インド四輪の販売見通しを前回予想の前期比+8%から+6%に下方修正

<二輪車>										
日本	116	152	▲36	▲23.8%	▲7	56	60	▲4	▲5.9%	▲7
欧州	-	-	-	-	-	46	43	+3	+8.0%	▲2
北米	4	4	▲0	▲6.6%	-	36	35	+1	+2.8%	▲2
アジア	1,547	1,431	+116	+8.1%	+2	1,434	1,254	+180	+14.4%	+36
その他	50	39	+11	+28.1%	+1	169	184	▲15	▲8.4%	+8
合計	1,717	1,627	+90	+5.5%	▲4	1,741	1,576	+165	+10.5%	+33

2019年3月期 第3四半期決算説明会



スズキ株式会社

将来予想に関する注意事項

- ※このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- ※実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。
- ※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動(主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場)などが含まれます。